

わが社の  
凄腕  
ウーマン

# 藤野 美香さん

(株)メディアカ出版 (株)保育社 デイレクター



1

**看**護、医学分野を専門とする出版社、(株)メディアカ出版(大阪市)は、

出版業界が縮小するなかで、デジタルコンテンツを併用した書籍や雑誌を発行し業績を伸ばしている。二〇〇七年には、経営難に陥った出版社の(株)保育社を子会社化した。同社の凄腕ウーマンは、クロスコンテンツ事業部門でデイレクターを務める藤野美香さんだ。

大学で心理学を学んだ藤野さんは、コンサルティング会社での編集職、総合教育機関での広報や新事業の立ち上げに携わった後、二十年前に同社に入社した。以降は「社会的な弱者を支援する人たちの役に立ちたい」という強い信念のもと、脳外科病棟の看護師向け雑誌『ブレインナーシング』の編集や雑誌『産業保健と看護』の創刊のほか、自殺防止を目的にAR(拡張現実)を用いた絵本『ひとりぼっちのオルガン』など書籍の編集も担当してきた。

外国人の診療を支援する多言語問診アプリ「メディアパス」の開発にも関わった。同社の強みは、出版コンテンツに新しい技術を積極的に取り入れて、利用価値を高めること。デジタル看護教科書を見た大学教授からは「この会社は時代の三歩先を進んでいる。後ろに〇・五歩下がれ」と冗談を言われるほどだ。過去にはデジタルコンテンツを発売した一週間後に、中国で海賊版が出たことも。革新的なアイデアだったことがうかがえる。藤野さんも、進取の



3



2



(保育社 2017年12月)

- 1 藤野さんが編集した幼児向け教材『ホイッキーとおうち☆えいごじゅく』(全6巻 保育社)。専用のペンでイラストをタッチすると英語の音声や音楽が流れ、子供が英語の基礎を一人で学べるように工夫されている
- 2 長谷川社長(左)が手にしているのは、同書(右下)のノベルティーで、主人公・ホイッキーのぬいぐるみ
- 3 目がさえている午前中は、原稿チェックや執筆などを行う

### 藤野さんのある1日

04:00	起床、読書、ネコの世話、家事
07:30	出勤 メール・SNSのチェックと投稿
09:00	始業
10:00	原稿整理、校正、執筆など
12:00	昼食
13:30	取材
15:00	書店で『ホイッキーとおうち☆えいごじゅく』の営業
16:30	社内会議
18:00	退社
19:00	異業種交流会「都市医学研究会」の事務局を担当
23:00	帰宅、ネコの世話
24:00	就寝



5



6



4

- 4 現在、同社では看護・医療関連雑誌を23誌発行
- 5 大手企業で、月刊誌『産業保健と看護』の取材
- 6 看護基礎教育テキスト『ナースィング・グラフィカ』(全42巻)は、書籍版と電子版を発行。ARを採用し、タブレット端末で臓器の立体的なアニメーションや動画が見られると看護学校で好評だ

撮影/宮川 久、太田未来子、(株)メディカ出版



**(株)メディカ出版**  
**(株)保育社**

大阪市淀川区宮原 3-4-30  
☎ 06-6398-5008  
<http://www.medica.co.jp/>

「教育格差をなくそうと企画した英語教材(写真)には、社会的弱者へのエールを込めている。書名にある『☆』は、子供が自分の自信となる星の一つでも持ち、困難に直面した時の力にしてほしいという開発者たちの願いを表した。」と藤野さんは語る。

気性に富む長谷川素美社長の右腕の一人となり、医療関係者とのネットワークを築きながら、新たなコンテンツの制作に取り組んでいる。

**障**害や困難を抱える人たちに対する社会の理解を深めたいと、藤野さんは考えている。昨年末に出版した『高次脳機能障害 支援の道しるべ「就労・社会生活編」』(名古屋市長合リハビリテーションセンター 編著)もその一つだ。高次脳機能障害は、外見ではわからないが、認知機能や遂行機能などに障害があり、社会で活動するには周囲の理解と適切な対応が欠かせない。「私の基本は産業心理学で、今も研究を続けています。それが他方面に発展して、仕事に結びついています」と藤野さんは語る。